

指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたかく

令和8年7月17日 第5号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX 048-624-2200

<https://sashiogi-e.saitama-city.ed.jp>

夏休みは国語力を育てよう

校長 小松 伸弘



一学期が終わりました。保護者の皆様には、本校教育活動に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

明日から夏休みです。まとまった時間があるこの機会に、「国語力を伸ばしたい」と考えている御家庭もあるのではないかと思います。そこで今回は、「国語力とは何か」を一緒に考えてみたいと思います。

「うちの子は国語が苦手で…」保護者の方からそんなお話を伺うことがあります。そのたびに「国語が苦手」とはどういうことだろうと考えます。

国語力というと、私たちは漢字やことわざ、作文などを思い浮かべるのではないのでしょうか。もちろん、それらも大切ですが、果たしてそれだけが国語力でしょうか。例えば、外国語を学ぶとき、私たちは「完璧になってから話そう」とは考えません。外国語は間違えながら話すことで自然と身に付いていくものだからです。ところが、国語になると話は変わります。作文を書けば誤りを正し、漢字を書けば書き順を直される。指摘され続けるうちに、「間違えてはいけない」という気持ちが強くなり、話すことや書くことが苦手になる子もいます。もしかすると国語が苦手なのではなく、「間違えること」が嫌なのかもしれません。もちろん、漢字に興味をもって、成り立ちや書き順を進んで調べる子もいますし、それは素晴らしいことです。しかし、大人にとって国語力とは、相手の話を正しく理解し、自分の思いを正確に伝える力ではないのでしょうか。

そう考えると、御家庭でできることも見えてきます。子どもが帰宅すると、つい「今日どうだった？」と聞きたくなりますが、少し我慢してみてください。お子さんが自分から話し始めたら、「それでどうなったの？」「どんな気持ちだったの？」と話を促してみましよう。言葉の使い方が少し違っていても訂正せず、「それってこういうこと？」と言い直してあげると、子どもは自分の考えや気持ちを整理することができます。話を聞き終えたら「なるほど、そういう気持ちだったんだね。」「説明が上手だったから、よく分かったよ。」と伝えてみてください。その一言が、お子さんに「もっと話したい」という気持ちを育ててくれると思います。

書くことが好きになってほしい場合には、親子で短いメッセージを交換してみるのもよいかもしれません。一行でも構いません。学齢期の子どもたちにとって大切なのは、正しく書くことを意識する以前に、伝えたい気持ちを萎縮させないことではないかと思うのです。

夏休みは、学校ではできない経験を積むことができる時期でもあります。たくさん遊び、話し、笑い、ときに悩む。その一つひとつの経験が、お子さんの心を豊かにしてくれることと思います。二学期、ひと回り成長した子どもたちに会えることを楽しみにしています。夏休みが、御家族にとって豊かな言葉にあふれた毎日となりますよう、願っております。